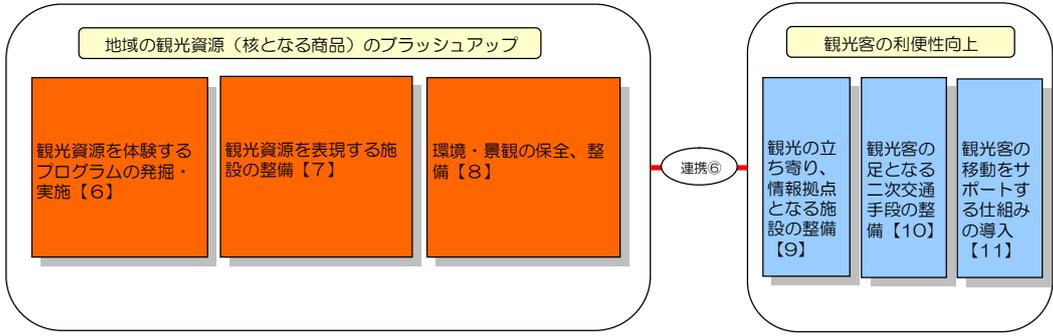


連携 ⑥	各取組と連動した周辺環境の整備  取組【6】【7】【8】【9】【10】【11】	
	特徴的な事例	02-富良野・美瑛 04-角館 05-小野川温泉 07-会津若松 07-喜多方 10-富士河口湖
		
<p>連携の狙い</p> <p>○施設の整備、プログラムの発掘と平行して、環境の保全、二次交通の確保、移動のサポートを実施することにより、地域一体としてコンセプトに沿ったイメージを発信する。</p>		
<p>連携のポイント</p> <p>○ハード・ソフト両面からのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の目的となる施設の整備をメインに力を入れている地域が多く見られるが、観光客の視点から考えると、目的となる施設だけでなく、地域を走る道、移動手段となる乗り物、案内ガイド等のすべてが、地域のイメージを作るすべての要素となっている。このことから観光施設だけでなく、その周辺環境についてもハード、ソフト両面から整備することが重要なポイントとなる。 <p>○コンセプトに合致する環境整備や交通機関整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路を整備する際には、レトロ調な建物の周辺を整備する際には石畳や煉瓦等を活用するといったように、基盤となる観光施設のコンセプトに合った形で整備することが重要である（施設のコンセプトは地域のコンセプトである）。 ・二次交通についても、単純にバスを走らせるのではなく、基盤となる観光施設とコンセプトに沿った形の乗り物にする必要がある（会津若松市では、大正浪漫のコンセプトに合った施設を整備し、レトロバスを走らせている）。 <p>○移動をサポートする仕組みの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤となる観光施設やイベント会場を移動する際において、観光客をサポートする案内ガイドや地域独自のマップが必要となる。特にガイドによる案内は地域のイメージを大きく左右するので、研修の定期的開催や認定制度の導入等により質の確保を図ることが重要である。 		
<p>期待される効果</p> <p>○基盤となる観光施設の整備と平行して、周辺環境についても整備することで、地域一帯としてイメージの定着を促進することができる。</p>		